

松坂大輔選手など多くのスターを輩出した全国高校野球選手権大会（夏の甲子園大会）は、今年100回記念大会だそうです。

これだけ続いたのは、それぞれの時代時代で多くの方の水面下の努力があったからに違いありません。今年の記録的な暑い夏。僕がのぞいた大阪大会の試合は5回終了時のグラウンド整備の時間に加え、3回終了時と7回終了時に休憩の時間を設け、審判の方も守備の時間が長引いたりすると、選手に大丈夫かどうか声をかける等確認をされていました。この灼熱の炎天下、ほぼボランティアで円滑な試合進行を行う高校野球の審判の方には本当に頭が下がります。



長く続いたといえば、テレビ番組の「笑点」もそうですね。

民放が2局しか映らない宮崎県でも「笑点」は放送されていたので、子供の頃から弟と見ていました。以前、その笑点の大喜利で出されたお題への回答が、秀逸だと話題になったことがあります。前出の話題の高校野球といえば「18才」ですが、「18才と81才の違い」というお題がそれです。

- 心がもろいのが18才、骨がもろいのが81才
- 道路を暴走するのが18才、逆走するのが81才
- 偏差値が気になるのが18才、血糖値が気になるのが81才
- 恋に溺れるのが18才、風呂で溺れるのが81才
- まだ何も知らないのが18才、何も覚えていないのが81才
- 東京オリンピックに出たいと思うのが18才、東京オリンピックまで生きて思うのが81才
- 自分探しの旅をしているのが18才、出掛けたまま分からなくなって皆が探しているのが81才



等々

年配の人が「18才」のことだけを語ると、どこか小言くさくなり面白くもないかもしれません。でも、自身の「若い」や「死」さえもネタにした桂歌丸さんをはじめとする笑点メンバーだと、「81才」を自虐的に表現できますので、お笑いの基本といわれる「緊張と緩和」に昇華できたのだと思います。



さて、18歳未満の子を持つ働く母親の割合が初めて7割を超えたことが、厚生労働省が7月20日に公表した2017年の国民生活基礎調査で分かりました。

アベノミクスの成長戦略、「女性が輝く日本」の一定の成果といえるかもしれませんが、長期的な目的である、「国民年金第3号被保険者」の縮小に向けての社会的背景のプロセスが進んでいるのだと感じています。女性は家事をするのが当たり前という時代の価値観をベースに策定されたのが、「国民年金第3号被保険者」の制度。年収130万円未満の被保険者の配偶者は、国民年金を納付せずとも納めたものと見なし国民年金の受給対象になりえるという優遇制度は、財政面や働く女性との均衡といった面から見直しが迫られています。少子化高齢化により、労働力人口が減少していく一方、社会保障費の年々の増加が深刻化していく日本においては、「女性の社会進出」と「高齢者の就労」は、その脱却に向けた重要な課題です。その施策は、ワークライフバランスにつながり、「働き方改革関連法」にも脈々とつながっています。

今月寂しいニュースもありました。

「笑点」の桂歌丸さんが今月2日に亡くなりました。享年「81才」だったそうです。

僕が81才を迎えた時、どんな社会になっているかしらん。

高校野球がまだ続いている平和な日本であるといいな。

何より、18才や若い世代に、「明るい未来」という「座布団」を配れる社会であってほしいですね。

